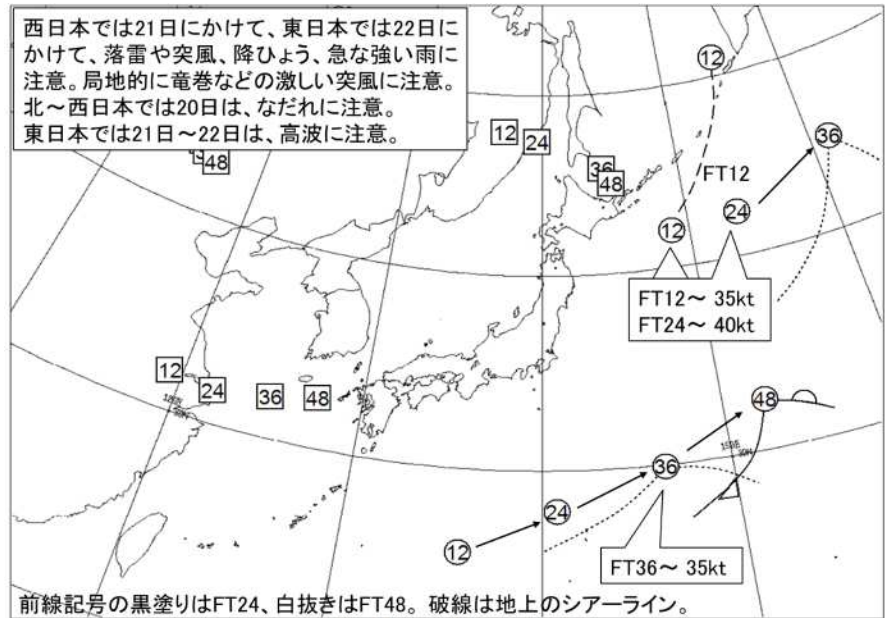


1. 実況上の着目点

① オホーツク海～北日本に地上のシアーラインがのびている。また、日本の東に低気圧があつて北東進。さらに伊豆諸島付近～日本の南も地上の気圧の谷となっており、20日9時に日本の南に低気圧が発生し、東北東進。これらの低気圧及びシアーライン、気圧の谷に向かい、日本のはるか東に中心を持つ高気圧から下層暖湿気が流入し、周辺では1時間に10～20mmの降水を解析。日本の東を中心に雷を多数検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のシアーラインは、20日夜にはオホーツク海～千島近海にのびる。また、1項①の気圧の谷は、20日夜には日本の東～日本の南にのびる。シアーラインや気圧の谷に向かい、1項①の高気圧からの下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西～東日本では20日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 西～北日本では、20日は1項①の高気圧後面の暖かい空気が流入、850hPa0°C線が東北地方まで北上し、雪解けが進む。西～北日本の積雪の多い地域では20日は、なだれに注意。
- ③ 1項①の低気圧は北東進し、21日は次第に不明瞭になる。一方、21日朝までに日本の東で別の低気圧が発生、500hPa5520m付近のトラフに対応して発達しながら北東進し、21日夜には千島の東へ進む。また、大陸の高気圧が東シナ海に移動し、日本付近は21～22日は、西高東低の気圧配置となる。北日本には850hPa-6°C以下の寒気が流入し、東～北日本の日本海側山沿いを中心に降雪となる所がある。
- ④ 500hPa5520m付近の-30°C以下の寒気を伴ったトラフが、21～22日に西～東日本を通過する。また、東海道沖～伊豆諸島付近は21～22日は地上の気圧の谷となる。上空寒気及び気圧の谷の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。西日本では21日は、東日本では21～22日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ⑤ 2項④の気圧の谷の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹き、波が高くなる所がある。東日本では21日～22日は、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。

③ 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。